



ワークショップ（オンライン研修）

11月24日～26日にかけて、シンガポールで開かれるIBコーディネーターのオンライン研修（leading the learning；学習の指揮をとる）に参加しました。コーディネーターがこのワークショップに参加することも、認定の要件のうちの1つです。最初の30分間の全体会では、当然のようにハイスピードな英語で説明され、様々な言語がチャットで送られてくることに、改めてこのIBというプログラムの国際性、壮大さを肌で感じた30分でした。

その後は、日本語ブースに入り、サッカーでも有名な埼玉県昌平中学・高等学校の前田先生からのご教授を受けました。鹿追中学校奥平先生、香川県三豊市教育委員会の方、長野日大中学・高等学校の先生2名、西武文理中学・高等学校の先生2名の計8名で、非常に和気あいあいとした雰囲気の中、ワークショップが進んでいきました。

一番心に残ったことは、前田さんのお子さんを通じたお話です。

「自分の子どもは現在、サッカーを習っており、将来プロサッカー選手になりたいと言って練習を頑張っている。しかし、いつかはサッカーを辞めなくてはならない時が来るかもしれない。いや、辞める人の方が大多数である。では、そこまで子どもがサッカーを続けてきたことは無駄だったのか？そんなことは絶対ない。そこで身に付けた体力や技能・社会性、サッカーを通じてしか出会えなかった人、すべては人生の糧になる。IB教育も同じである。その教科を探究することが終わりではない。探究したことで身についた力でどう社会を生き抜いていくかが大切である。」

若干、私なりの解釈が入っている部分はありますが、とてもわかりやすい例で説明してくださいました。

私たちが生徒になってIBについて「探究」する内容でしたので、3日間が終わるとぐったりしていました。でも、似たような境遇にある方たちとたくさん話ぐできたことは私にとって貴重な財産となりました。

一番難しかった問いを紹介しますので、ぜひ考えてみてください。

次の写真を見て、

もし（ ）だったとしたら
の（ ）を自分で考え、

①「学習の成果を示すものとして
何が見えるか？」

を話し合ひましょう。

これだけでも難解でしたが、

これに続く問いがあと4問あって

悪戦苦闘。まさに探究でした。



最近の授業の様子

さて、次年度から本格的に IB の授業に取り組むにあたり、我々教員も探究型の学習にどのように取り組んでいこうか一生懸命考えているところです。

私の数学の授業では、1年生が平面図形・空間図形の単元で探究を始めました。探究テーマは

「形式および空間のパターンの理解は、自己の創造性を
広げ、構造物の美しさの本質を理解することにつながる」

です。言葉だけだと何を言っているのかよくわからないと思いますが、学習内容を明確化し、自分たちで取り組めるよう工夫しています。

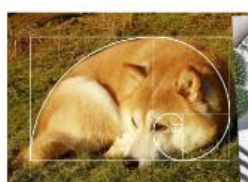
これまでの学習では、「移動」の学習を通して、その要素となる対称性や合同に着目し、身の回りにあるもの、ネット上の画像などを調べ、その数学的な美しさを考えまとめました。



黄金比



対称性



幾何学模様のがけぬ
(フラクタル)



コッホ曲線



コッホ雪花



シェルピンスキーの三角形



生徒の jamborad より

コンサルタントミーティング

11月に入ってから、週に1度のペースでオンラインによるミーティングを行っています。ありがたいことに、本校の他の職員とも面談をして下さることで、それぞれの教科の特性を踏まえたアドバイスをもらうことができ、職員への IB の理念が深まっています。古市先生は私と同じく数学科の教員ですが、英語も堪能な上、他教科の評価規準等をすべて網羅しているところがコンサルタントとしての資質なのだ改めて驚かされます。

みんなで学びを～ | IB用語～

SA (サービス アズ アクション)・・・奉仕活動

「IBのカリキュラムの中の1つ。花壇の整備や、小学生へのプレゼンテーションなど幅広い活動。ただし、生徒が自分で考え、自分で行動を起こす、活動を振り返ることが大切である。」